

地域医療連携だより

かまんざ

リニューアル創刊！

リレーコラム

「スクラムを組む医療従事者たち」スタート

| ごあいさつ

地域医療連携・入院支援室 室長 魚嶋 伸彦…2

地域医療連携・入院支援室 副室長 藤原 浩芳 / 看護部長 小川 智恵美…3

| Red Crossニュース

スクラムを組む医療従事者たちVol.1 感染管理室…4

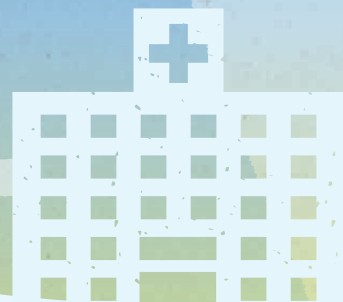
| 入院医療コントロールセンターでの業務…4

| 当院への紹介件数の推移…6

当日紹介・予約・診療に関するお問い合わせ

地域医療連携係 TEL **075-212-6186**

平日 8:30~20:30
土曜日 9:00~13:00



地域医療連携だより

かまんざ

リニューアル発刊
にあたって

地域医療連携・
入退院支援室 室長
副院長 魚嶋 伸彦

地域医療機関の皆さま、平素より多くの患者さんをご紹介いただき、また当院からの患者さんを迅速にお引き受けいただき誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の収束がなかなか見通せない中で、皆さまにおかれましても感染対策や経営面などにおいて多大なご苦勞をされていると思います。そのような中で京都府内においては、地域の先生方の献身的なご尽力によりワクチン接種が急速に進行していることを見聞きし、地域医療に対する皆さまの高いモチベーションに敬服いたします。当院においては、この1年半にわたるコロナ禍において、幸いにも院内クラスターを一度も発生させることなく、院内各部署が協力して重症・中等症の患者さんを中心に新型コロナウイルス感染症診療に従事してきました。今後も引き続き感染対策を十分に実施しつつ、救急診療を含む地域医療にさらに貢献していく所存です。今後とも変わらぬご支援を何とぞよろしくお願い申し上げます。

さてこのたび、地域医療連携だより「かまんざ」をよ

り充実した冊子にリニューアルし、皆さまのもとにお届けすることにいたしました。今回は新任副室長、新任看護部長からのあいさつを掲載させていただきます。また新型コロナ入院医療コントロールセンターの現況を報告させていただきます。この冊子を通して、地域医療機関さまとの連携をさらに深めさせていただき、地域医療に一層貢献したいと考えています。

また今後、これまで以上に皆さまとの密な連携を図らせていただく施策を考案していきたいと考えています。当院との医療連携に対するご意見がございましたら、地域医療連携室までご連絡いただくようお願い申し上げます。ご意見を真摯に受け止め、できる限りの改善に努めてまいります。

最後になりましたが、病病・病診連携懇話会を7月15日に京都ホテルオークラにて開催させていただきます。例年とは趣向を変えて、地域医療機関さまからのお話も頂戴いたします。皆さまの多数のご参加をお待ちしています。何とぞよろしくお願い申し上げます。

副室長就任にあたって

地域医療連携・入退院支援室 副室長 整形外科 部長 藤原 浩芳



日頃より病病・病診連携にご協力いただき誠にありがとうございます。このたび、2021年4月から地域医療連携・入退院支援室の副室長を拝命いたしました、整形外科部長の藤原浩芳です。

急性期病院のあり方については、地域や診療科によって異なると思いますが、整形外科においては開業医と勤務医の間である程度明確な役割分担がなされています。つまり、病院は手術や特殊な検査をもっぱら行い、保存療法は開業医の先生方にお任せすることになります。こういった観点から、昨年4月から完全紹介予約制を導入いたしました。現在まで特に大きなトラブルもなく外来診療を行うことができています。これもひとえに皆さまのご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。

今後は整形外科診療のみならず、病院全体の大きな目で地域医療連携のあり方をとらえて、開業医の先生方と他病院の連携室との懸け橋になれたらと考えています。精いっぱい自分の責務を果たす覚悟でございますので、何とぞご指導のほどよろしく願いいたします。

看護部長就任にあたって

看護部長 小川 智恵美

2021年4月に看護部長に就任した小川智恵美と申します。6月1日現在、看護職800名(看護補助者含む)のトップとして、医療連携の促進にどのように関わるべきなのか、思い巡らせているところです。

看護部門では「入退院支援室」に、師長以下14名の看護師が配置され活躍しています。しかし、今後の活動の幅を広げるためにも、まだまだ人員不足を感じています。また、その部門にばかり頼るのではなく、病棟・外来とも連携し、地域から来た患者さんが、より良い姿で元の場所に戻る手助けをしていかなければならないと考えています。PFMを導入し、順調な入院の受け入れを拡大している一方、退院支援看護師を育成し地域医療連携の充実を図ることが大切だと考えています。

まだ多くの課題がありますが、一つ一つ丁寧に対応し、当院および地域の発展に尽くしたいと思っています。



感染管理室



(COVID-19 感染対策本部より撮影)

病原体から患者さんと職員を守り、安心・安全な環境をつくります

病院にはいろいろな細菌、ウイルス、疥癬^{かいせん}などが持ち込まれる可能性があり「病院は感染の温床」ともいわれています。そこで、これらの病原体から患者さん、病院で働く多くの職員を守るための取り組みを行う部署が感染管理室です。

2020年2月から日本国内でも猛威を振っている新型コロナウイルスに対して、当院では同年4月1日から新型コロナウイルス対策本部を設置し、対応を継続しています。

これまで感染制御部として活動していましたが、2021年

4月の組織改編に伴い、長村副院長を室長とした感染管理室に移行、感染制御チーム(ICT:Infection Control Team)、抗菌薬適正使用支援チーム(AST:Antimicrobial Stewardship Team)の2チームに分かれて医療関連感染対策委員会(ICC:Infection Control Committee)を運用しています。スタッフは4職種9名(医師2名、看護師2名、薬剤師2名、臨床検査技師3名)で構成しています。

今後、ワクチンの普及により感染率、重症化率の低下が期待されますが、引き続き院内の感染対策を行ってまいります。

入院医療コントロールセンターでの業務

2020年3月27日より京都府庁に入院医療コントロールセンターが設置され、新型コロナウイルス感染症の患者さんの病態把握、受け入れ病院調整、搬送調整やホテル入所調整、また救急要請患者さんの搬送先選定などの業務を行っています。新型コロナウイルス感染症の患者さんの調整は通常、保健所で入院調整を行います。地域ごとで行うと、限られた受け入れ病床を有効に活用できないなどの弊害があるため、京都府では早期から医師(当初は統括DMAT隊員)を配置したコントロール

センターで重症度に応じた受け入れ調整などを24時間対応で行っています。しかしながら、第3波・第4波と陽性患者さんが増えるに従い、経時的に受け入れ病床が増えているにもかかわらず、非常に逼迫した状況が続き、入院が必要な高齢者や基礎疾患のある陽性者が自宅待機を余儀なくされました。新型コロナウイルス感染者が減少することを願いつつ、命を救うことを目的にスムーズで適切な調整を今後も続けていければと考えています。

(救急科 副部長 石井 亘)

当院では、院内の多職種が連携し、職員がチーム一丸となって患者さんに最適な医療を提供しています。
今号よりリレー形式で各部・室の現状について語っていただきます。

主な6つの取り組み

これらの取り組みを通して、患者さんが安心して診療を受けられ、職員が安全に業務をできる環境を整えます。

1 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動
院内で発生する感染症に対して、血液などの培養結果を確認し、病棟担当薬剤師と共に適正な抗菌薬の選択と使用方法を推進し、抗菌薬耐性菌の発生や蔓延の予防に努めています。

2 感染制御チーム(ICT)の活動
ICT会議を定期的に行い、耐性菌の発生状況、抗菌薬の使用状況を報告しています。

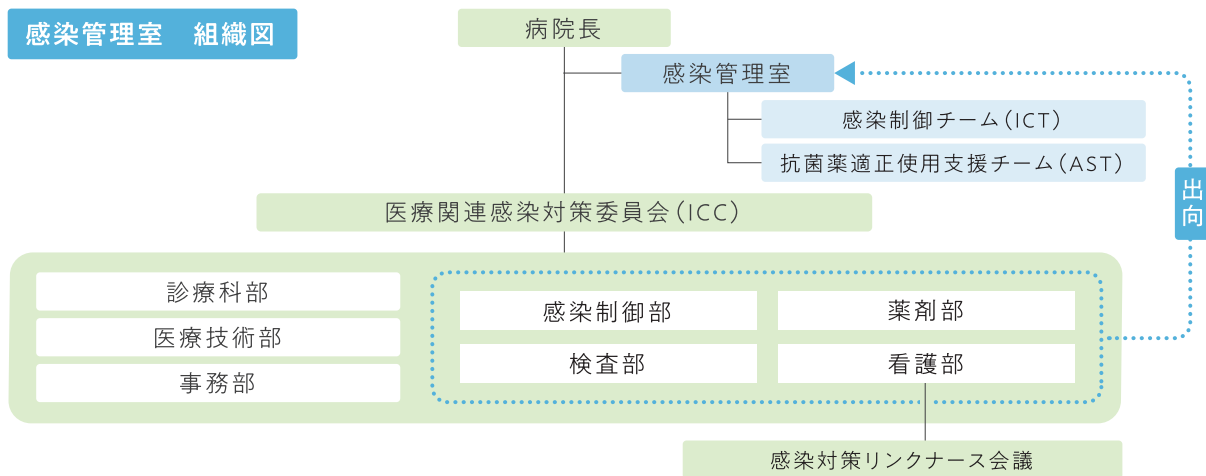
3 職員の院内感染予防対策
麻疹・風疹・水痘・ムンプス(おたふくかぜ)やB型肝炎、季節性インフルエンザに対するワクチン接種を、各ウイルスの抗体価の把握とともにを行い、結核菌曝露の可能性があった職員の経過観察も併せて行っています。

4 院内ラウンドの実施
抗菌薬適正使用のラウンド、環境ラウンド(病棟の環境整備、物品の消毒状況、手術室の清掃状況など)を複数の職種で行います。また、感染症のアウトブレイクが発生した場合に調査と原因分析を行い、早期の収束に向けての対応を行っています。

5 感染対策の研修
感染制御に関する院内での研修会、院内広報活動の実施ならびに地域の複数の医療機関と連携し、感染対策の向上を図っています。

6 感染対策のマニュアル化
院内の感染対策マニュアルを作成し、感染症発生時の対応を標準化しています。

感染管理室 組織図



当初のICU(陰圧室)の様子

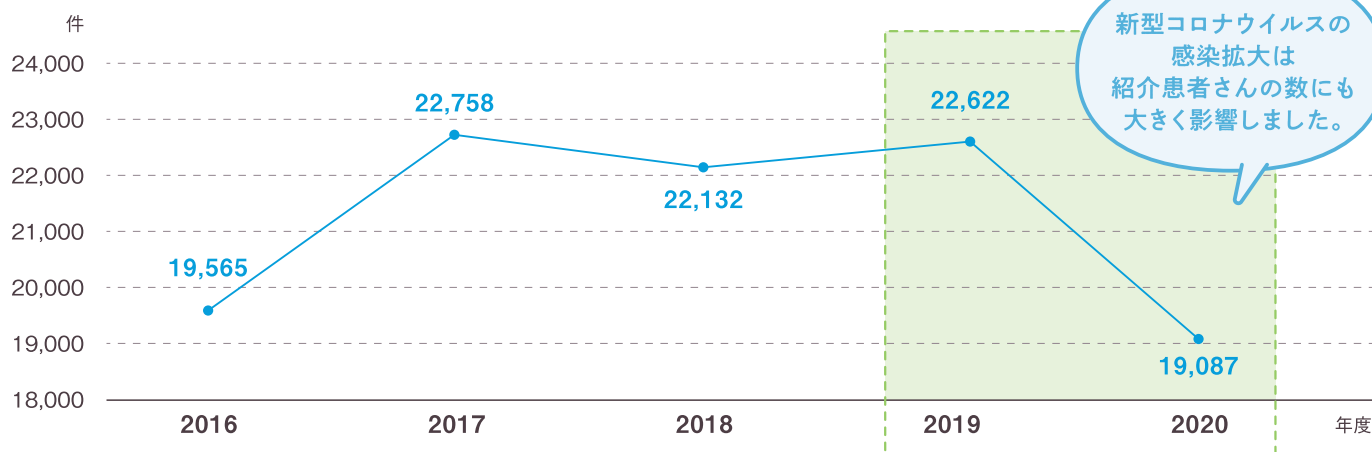


新型コロナウイルス陽性患者のECMOの乗せ替え

当院への紹介件数の推移

新型コロナウイルスの影響もあり、過去5年間で最も紹介件数が減少した1年となりました。
詳しい内訳として、2019年度と2020年度を比較した「診療科別紹介件数」と「医師会別紹介件数」を掲載します。

紹介件数の推移(直近5年)



診療科別紹介件数(2019-2020比較)

診療科	2019年度	2020年度	前年度比
消化器内科	2,641	2,233	-408
循環器内科	2,011	1,856	-155
整形外科	1,837	1,549	-288
歯科・口腔外科	1,775	1,520	-255
産婦人科	1,407	1,228	-179
眼科	1,378	1,150	-228
脳神経内科	1,149	1,146	-3
耳鼻咽喉科・気管食道外科	1,294	1,006	-288
小児科	1,788	1,003	-785
呼吸器内科	1,216	981	-235
泌尿器科	804	734	-70
外科	787	699	-88
形成外科	818	697	-121
糖尿病内分泌・腎臓・膠原病内科	741	691	-50
皮膚科	676	632	-44
救急科	597	459	-138
脳神経外科	517	412	-105
血液内科	410	338	-72
心臓血管外科	234	233	-1
放射線診断科	216	183	-33
放射線治療科	56	112	56
こころの医療科	179	125	-54
呼吸器外科	91	100	9
合計	22,622	19,087	-3,535

医師会別紹介件数(2019-2020比較)

地区	医師会	2019年度	2020年度	前年度比
京都市内	中西	3,028	2,572	-456
	西陣	2,670	2,208	-462
	右京	2,717	2,113	-604
	左京	2,032	1,893	-139
	中東	2,072	1,728	-344
	北	1,746	1,573	-173
	上東	965	841	-124
	下西	908	816	-92
	下東	570	492	-78
	西京	296	249	-47
	東山	245	216	-29
	山科	192	153	-39
京都市外		1,556	1,181	-375
京都大学病院		78	70	-8
京都府立医科大学		190	200	10
歯科		1,686	1,465	-221
その他		765	685	-80
他府県		906	632	-274
合計		22,622	19,087	-3,535

緊急受け入れ時のCOVID-19チェックシートの運用など、当院の取り組みにご協力いただきましてありがとうございます。
今後も感染状況に応じてご不便等をおかけするかと思いますが、引き続きご協力をお願いいたします。

